

第七回 高麗郡偉人伝 飯能出身 忠義の武人 中山信吉 特別展

◆ なかやまのぶよし 中山信吉 (1576年～1642年)

戦国時代末期、現在の飯能市中山に生まれました。父 家範は北条氏に仕え、豊臣秀吉の小田原攻めに際し八王子城で迎え討ちますが、敗戦し自害しました。十五歳で徳川家康に召し出され、そば近くに仕え、家康から信頼され、十一男 よりふさ 頼房の養育と補佐を任されました。後に頼房が、水戸初代藩主となると、「附家老」を命じられ、水戸藩の礎を築きました。お墓は、飯能市中山の智観寺ちかんじに建てられています。

◆ ごさんけ 徳川御三家 と 水戸藩について

徳川將軍家に次ぐ家格を持ち、徳川を称することを許された三家を徳川御三家と称します。江戸時代を通じ將軍の一門として絶大な権威を誇りました。家祖は、家康の九男 よしなお 義直、十男 よりのぶ 頼宣、十一男 よりふさ 頼房で、それぞれ尾張(名古屋)、紀伊(和歌山)、水戸(茨城)に封ぜられたため、尾張家、紀伊家、水戸家と呼ばれました。中でも水戸家は、尾張・紀伊家と異なり、江戸の小石川邸に常住したことから、俗称としての副將軍の名がおこったと考えられます。水戸藩主は、初代 頼房から十一代 あきたけ 昭武まで、頼房の血脈が絶えることなく国替もありませんでした。二代藩主の みつくに 光圀は『大日本史』の編纂のため多くの学者を集め、文化事業をおこして独自の教学である水戸学のもとを築きました。

◇ つけがろう 附家老とは

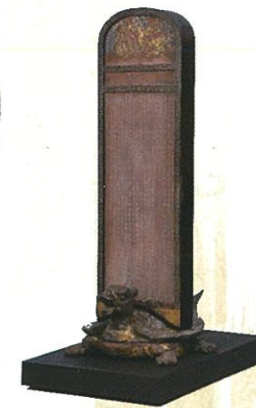
江戸時代、幕府が親藩に対し、また本藩が支藩に対し、施政を監督・指導するため遣わした家老のことです。代表的なのは御三家の附家老で、尾張家の成瀬氏、竹腰氏、紀州家の安藤氏、水野氏、水戸家の中山氏の五氏があります。代々の藩政を統轄し、格別な礼遇を与えられていました。

高麗神社社務所 埼玉県日高市新堀833 電話 042-989-1403



中山信吉 木像 (写真提供: 飯能市教育委員会)
江戸時代 智観寺 所蔵

※会場では、茨城県高萩市教育委員会所蔵の複製を展示いたします。



中山信吉 木碑 (写真提供: 吉備文化財修復所 飯能市教育委員会)
江戸時代 智観寺 所蔵

※会場では、ほぼ原寸大の写真タペストリーを展示いたします。

徳川家康の厚き信頼をうけ、水戸藩の附家老として初代藩主 徳川頼房を支え、そして二代目 みつくに 光圀の才覚を見出した飯能出身の逸材、中山信吉の功績と、その一族を紹介する

第七回 高麗郡偉人伝
飯能出身 忠義の武人 中山信吉 特別展
— 敗軍の将の子 天下人に頼られる —

開催期間: 令和4年8月20日(土)～8月28日(日)

展示会場: 高麗神社 参集殿2階 大広間

開場時間: 9:00～16:00 ※入場無料

<講演会 及びトークセッション> ※事前申込み・両日とも各40名/参加無料/他、中面参照

■ 8月20日(土) 13:30～15:30 講師: 埼玉県立文書館 学芸員 大橋毅頭氏

■ 8月28日(日) 13:30～15:30 講師: 石造文化財調査研究所 代表 松原典明氏

<一弦琴演奏会> ■ 8月21日(日) ※事前申込み・定員30名/参加無料/他、中面参照

<紙芝居上演> ■ 期間内に複数日実施 ※展示会場内/自由参加・無料/他、中面参照

<ゆかりの地を巡る見学会> ● 8月24日(水) ※事前申込み/定員・参加費有り/他、中面参照

主催: 高麗神社<埼玉県日高市新堀833 電話 042-989-1403>/企画運営: 高麗郡偉人伝企画運営委員会
<後援> 埼玉県西部地域振興センター/日高市/日高市教育委員会/飯能市/飯能市教育委員会
茨城県高萩市教育委員会/テレ玉/飯能日高テレビ/埼玉新聞社/(株)ブラウズ<文化新聞>/ (順不同)